

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100067		
法人名	株式会社ライフエイドジャパン		
事業所名	グループホームライフエイド柏原ミルテ		
所在地	福岡県福岡市南区柏原1-2-4		
自己評価作成日	令和6年8月20日	評価結果確定日	令和6年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1 関ビル1F TEL:092-589-5680 HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和6年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

アットホームな雰囲気です。スタッフは入居者やご家族と信頼関係を築けるように心がけている。医療と連携を図り入居者やご家族の意思を尊重し最期まで支援していく。近年コロナや様々な感染症が流行しているので勉強会やその対策をして安全に過ごせるように支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スーパーマーケットや金融機関、コンビニエンスストアや医療機関等、生活していくうえで必要な社会資源が事業所の周囲に点在しており、生活しやすい場所にグループホームライフエイド柏原ミルテは建っている。事業所の照明は、主に白熱電灯が使用されており、蛍光灯とは違い気持ちが落ち着く環境である。また、カラオケ機器も備え付けてあり、利用者がいつでも楽しく歌えるような環境である。1ユニットであるためか、利用者と職員の関わりが良い距離感であるため、利用者は職員と良く会話を楽しんでいる風景を垣間見ることが出来る。協力医療機関との連携もあるため、また、看取りの体制も整えており、面会も比較的自由に出来る環境にあるため、家族との関わりも維持しやすい環境下である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を共有、実践できるように毎日チェック表で確認し実践に繋げている。	事業所としての理念を室内に掲示をして、職員がいつでも見られるようにしている。全職員、出勤時に理念を読んでチェックをして、出勤時には理念を読む習慣としている。職員は理念を覚えており、理念を意識して業務をする様に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ後はなかなか行事が開催できず地域との交流が出来ていなかったが。今年度は秋祭り等開催予定で地域との交流を本格的に再開予定。	町内会に加入しているため、2か月1回程度回覧板が回ってくるため、地域内でどのような地域行事があるか等を知る機会にもなっている。今年の秋は事業所の上層階にある介護付有料老人ホームと合同で秋祭りを実施する予定となっている。運営推進会議の際に、秋祭りの広報をしており、地域の方々の参加も出来るようにしている。	ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で地域との交流や行事が出来なかったと思います。今後は、感染症に配慮しつつ、地域との交流をする機会を増やしてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての勉強会等を運営推進会議で開催していたがコロナ後は短時間で進めていたため勉強会を開催できず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービス内容や状況報告、地域の方が何か困っている事は無いかな等テーマを持って意見交換を行っている。	基本的には、対面にて運営推進会議を開催しているが、感染症等発生の際は書面で開催している。参加者としては、町内会長(町内副会長)、民生委員、福祉委員、いきいきセンター職員(地域包括支援センター職員)、ご家族、利用者が出席している。面会をどのように対応しているのか開催の度に聞かれるため対応している。地域包括支援センターからは、研修案内や勉強会の案内があっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回運営推進会議に包括支援センターの方に参加して頂き現状報告や地域の情報を受けている。	福岡市の事業者指導課にも運営推進会議の案内を出している。また福岡市には、運営推進会議録を郵送している。生活保護受給者が現在はいないが、以前いた時はケースワーカーが年に数回事業所に訪問をしていた事がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り身体拘束は行っていないが建物の構造上やむを得ないので施錠を行っている。なるべく施錠しないで出来るように定期的に併設施設の役職者と会議を行っている。	「身体的拘束等の適正化のための指針」を事業所として作成している。3か月に1回「身体拘束委員会」を実施して記録もしている。現在は身体拘束をしている利用者はいない。半数以上の利用者がセンサーを利用している。センサー利用に関しては、家族に口頭で説明をして了承を得た後に使用している。	

R6.9自己・外部評価表(グループホームライフエイド柏原ミルテ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は高齢者虐待防止法について研修会に参加し虐待防止法に注意を払い防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度の研修会に参加し認識している。	福岡市主催の成年後見制度の研修会に参加したり、事業所内で資料を収集して、職員が講師となって成年後見制度の研修をしたりしている。研修頻度は福岡市の研修も事業所内研修も年1回程度である。成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用されている利用者はいないが、家族等から説明を求められた時は、制度についての説明ができる様にパンフレットを準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には見学を行っている。利用者や家族の方の不安や疑問点には十分な説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等でコミュニケーションを図り、意見や要望の交換等を行い、運営に反映させている。	家族会は年2回開催しており、その中で家族からの意見を聞けるように工夫をしている。事業所独自で家族へのアンケートを作成して家族の意見を少しでも聞こうと努力している。全利用者家族からアンケートを回収している。アンケート結果は家族会の中で資料として手渡し、口頭で説明している。家族会に欠席された家族にはアンケート結果を郵送している。家族からいただいた意見を生かすように努力している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中や月一回のミーティングで意見、相談があれば聞き、その都度対応している。	事業所内のレイアウトを変えた方が良いのではないかという意見が職員から出たため、レイアウトを変更するようになっていく。利用者が過ごしやすいような環境になるように工夫している。介護福祉士の取得を目指している職員がおり、職員が資格取得できるように勤務を工夫するように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれがスキルアップを目指し、研修会や勉強会への参加をすすめ、やりがいのある働きやすい環境作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢等の理由で排除せず、人柄を優先して採用している。新規職員、現職員に対しても研修参加、資格取得の機会を平等に与えている。	30歳代から70歳代の職員が勤務をしている。職員募集に関しては性別や年齢等を理由に採用から排除しないようにしている。大正琴が弾ける職員やマジックが得意な職員がいるので誕生会で披露するような場面を持っている。資格を取得したいという職員については、資格取得が出来るように勤務調整をしている。	

R6.9自己・外部評価表(グループホームライフエイド柏原ミルテ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内外の研修会や勉強会に参加し、入居者様への尊厳、人権そしてプライバシーについて検討する機会を設けている。	人権に関する研修が行政から案内されているので、年1回職員が研修に参加している。研修に参加した職員が月1回のミーティングの際に、他職員に伝達研修をして、研修に参加していない職員にも研修内容を共有できるようにしている。	伝達研修をした事が分かるような報告書作成に取り組んではどうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部の研修会等に参加してもらいスキルアップを図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、研修会や勉強会へ参加し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前から本人が感じている思いや不安をしっかりと聞き取っておりサービス変更や提案についても十分な説明を得て支援に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族から困ってる事、不安、要望などに寄り添いながら話を聴き、安心できる環境作りを行ってる。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の現状を把握し他職種と連携を図り、必要とされている支援を提供できるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や花の水やり、入居者様との生活の中で出来る限り共同で作業を行い、暮らしを共にする者同士関係を築き、安心して生活できる様支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら面会、外出等を行い、ともに本人を支えていく関係を築いている。		

R6.9自己・外部評価表(グループホームライフエイド柏原ミルテ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	週に一回等定期的に家族と外出、一緒に食事をされている。 日程を調整し面会や自宅で家族と過ごす。 行事等の写真を家族に送信し生活ぶりを伝えている。	家族の方が週1回程度外出に連れ出して、外食をする機会を持ったり、教会の方が利用者に面会に来られたり等、今までの関係性が途切れない様にしている。月1回は利用者の生活状況が分かるような写真を家族に提供して、事業所内での生活状況が少しでも分かるように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不穏や興奮があり落ち着かれない時以外はレクや体操、テーブル拭き、エプロンたたみなど出来る事を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に住み替えとなった方については面会及びその後の身体状況など本人の思いなどを伝え情報共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向に沿って出来る事は寄り添える様努め、出来ない時はご家族等に協力を求め相談している。	利用者に直接、希望や要望がないか聞いたり、家族に以前好きな事や日課を聞いたりして、以前の暮らしと大きな差が出ない様にしている。広告チラシを見て、食べてみたい物が食べられるように外食に行ったり、茶道をしている利用者の方がおり、本人の茶道道具を使って茶をたてる等、利用者の希望を極力取り入れる様にしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に基本情報をCMIに依頼し入居前の暮らし、生活環境、医療環境など収集し情報共有に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活パターンシート等で排泄、睡眠、食事等の把握、心身の状態においてコミュニケーションを図り本人が出来る事、出来ない事を相談している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題を抽出しスタッフと話し合いプランや普段のケアに活かす。 ご家族の協力が必要な時は協力を求めている。	初回面談は管理者と計画作成担当者と面談に行き、状態の把握に努めている。アセスメントやモニタリングは、居室担当に状態を聴きながら計画作成担当者がとりまとめて作成している。ケアプランは計画作成担当者が作成をしている。家族が面会に来られた時に家族の意向を聴いたり、事業所での生活状況等を家族に情報提供したりして家族の意向を聴くようにしている。	

R6.9自己・外部評価表(グループホームライフエイド柏原ミルテ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあればその場のスタッフで話し合い、記録等で共有し、再度ミーティングで検討、実践、計画等に反映している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度状況に対応できる様にスタッフやご家族と連携を図りながら柔軟な支援が行えるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開き、町内会、民生委員、地域包括支援センターの方々に参加して頂いている。地域資源の把握、入居者に対してどのような支援が出来るか検討している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者はかかりつけ医が協力医療機関の為緊急時の受診や受診に行けない場合は必要に応じて往診を受けている。複数の病院を受診していても電話連絡等で共有している。	利用者は協力医療機関にかかっているが、他科受診している利用者もいる。他科受診に関しては家族の通院介助や受診時の付添をお願いしているが、家族が対応困難な時は事業所職員が付き添っている。事業所での生活状況が医師に伝わるように、医師に対して生活状況が分かる文章を作成したり、必要時は職員が受診に同席をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気付いたことは看護職員へ報告、相談が出来ている。その後の入居者に対しても受診や適切な看護が提供出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携を図り、入退院時の情報支援を行っている。入院時にご家族と相談し、ご家族がストレスにならない様にケアを行い、退院についても情報を共有している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様に対し、入居時に急変時や状況変化についての説明を実施し、意向の確認を行っている。看取りケアの際は、終末期プランの作成と内容についての説明を行い、ご家族に寄り添った支援を実施している。	看取りに関しては事業所で対応出来る範囲は対応出来る体制を整えてはいるが、ここ数年、実際に看取りになった利用者がいない。入居時に「重度化した場合の対応に係わる指針」に基づいて事業所の体制を説明し、家族が説明を受けた事が分かるように指針に署名及び捺印をもらった書類を保管している。研修も定期的の実施している。	

R6.9自己・外部評価表(グループホームライフエイド柏原ミルテ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生防止の勉強会及びAEDの使用方法、心肺蘇生の勉強会や研修会を定期的に行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、施設内にて防災訓練、年に3回の勉強会を実施し、非常時に慌てずに避難誘導が行えるようにしている。	防災訓練を年2回、昼間想定訓練と夜間想定訓練を各1回実施している。事業所の建物の2階から5階が介護付有料老人ホームのため、合同で防災訓練を実施している。防災訓練は主に火災訓練を中心に実施している。防災訓練時は消防関係の委託業者も参加をしている。利用者の状態像が車いすか歩行ができる利用者かの判別が出来るように工夫している。	地域の方々を含めた避難体制を考える機会を持つてはどうだろうか。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重して言動等を否定せず、安心して生活できるように心がけている。	入浴介助時や排泄介助時には、必ず扉を閉めてプライバシーを確保している。また、事業所理念に「人格の尊重」の一文があるため、職員に理念を振り返ってもらうようにしている。申し送りをする時には、他利用者に内容が聞こえない様にしたり、利用者名を出さない様にしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を望んでいるのか、何を言いたいのかを見落とさない様声掛けや、日々の表情の観察を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースを尊重し業務優先にならない様にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理容を行い散髪やカラー等を希望者に行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの希望や入居者様に合った食事形態を提供している。また、出来る方には台拭きやお盆拭き等出来る事を一緒に行っている。	冷凍された食事が3日に1回届くので、それを温めてお皿に盛りつけて食事を提供している。食事の準備や盛り付けや配膳は職員が実施し、台拭きやお盆拭きは利用者の方にして頂く事もある。食事形態は普通食、ミキサー食、ソフト食の3種類あり、刻みや一口大は職員が刻んで提供している。誕生会の時に、ケーキを作ったり買ってきたりして提供したり、外食をしたりする機会を持つようにしている。	

R6.9自己・外部評価表(グループホームライフエイド柏原ミルテ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの生活習慣や心身の状態に応じて支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行い自身で出来ない方はスタッフが行うようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見てトイレの声掛け、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を促している。失禁が多い利用者は何が原因か皆で考えオムツのサイズを変更するなど工夫して対応している。	利用者自身が手すりにつかまって、少しでも自分で立って頂けるように支援したり、少しでも失禁が少なくなるように、排泄介助のタイミングを工夫する等して排泄の支援に努めている。排泄チェック表を作成しており、排泄のタイミングが把握出来るように努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方にはミニトレーナーや歩行訓練などを実施して腸の働きを促しなるべく下剤を使わない様工夫している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の配置の都合上入浴日を決めているがなるべく楽しんでもらう様入浴剤などを使用し季節や雰囲気を感じられるようにしている。	入浴は週2回実施しており、個浴で対応をしている。浴槽をまたぐことが難しい利用者は、職員が2人介助で入浴介助するか、シャワー浴にて対応をしている。入浴の際は入浴剤を使用して、少しでも楽しんでもらえるようにしている。ゆず湯を実施して季節感を味わってもらう機会を設けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温、照明の調整を行い気持ちよく休んで頂ける様支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服用している薬の目的、効果、用量について把握している。受診時に状態を報告しその時の状態に合わせ用量や内服の変更があればその都度スタッフにも伝達している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各種感染症に気をつけながら毎日一時間レクリエーションに参加して頂き楽しく過ごして頂けるように支援している。		

R6.9自己・外部評価表(グループホームライフエイド柏原ミルテ)確定

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として外出支援を計画し季節を感じられるよう支援している。 ご家族協力のもと自宅で食事、外食、買い物等されている。	日常的に玄関先に出て、花の水やりをしたり、事業所の周囲を散歩したりする機会を持っている。年間行事としては、1月には初詣に行ったり、4月には花見、秋には紅葉を見に行ったり外食に連れて行ったりする機会を持っている。利用者によっては、家族と一緒に定期的に外出をして外食をする機会を持っている利用者もいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症があり金銭管理できる方がいない。 ホームでお小遣いを預かり管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く入居者はいないが電話やオンライン面会を希望者に行っている。また、自己管理できる方は携帯電話で家族とのやり取りをされている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ち着いて生活できるように音の大きさや明るさ、空調、障害物に配慮している。また、毎月季節に合った掲示物を飾り、季節を感じる様支援している。	夏はひまわり、秋はお月見等季節に応じた飾りものを職員と利用者で一緒に作成して共用空間に飾って、季節感を味わってもらっている。共用空間には、テーブル、椅子、ソファ、テレビ、畳の小上がり、トイレ(3箇所)、洗面台(4か所)がある。利用者の過ごすスペースは、白熱電灯を使用して温かみがある空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような工夫をしている。また、家族との時間を過ごすように居室で面会を行っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に使い慣れた家具や持ち物、思い出の写真等が持ち込まれ居心地の良い空間作りを行っている。	介護用ベッド、サイドテーブル、カーテン、電灯、クローゼットは事業所の備え付けとして準備されている。利用者の使い慣れた椅子や家族写真、テレビ等を持ち込んでいる利用者もいる。利用者の好みの物を持ち込んで、少しでも生活がしやすいようにしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手すり等を設置している。また、足腰の悪い方は導線を短くするなど入居者にあつた支援を行っている。		